

里山巡回指導（いちほら里山クラブ）

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	里山巡回指導
日時	平成 30 年 10 月 13 日（土） 9:00～15:00
会場	いちほら里山クラブ 活動フィールド 2 か所（天羽田、古敷谷）
出席者	（森林研究所）福島所長、荒木研究員、（いちほら里山クラブ）石崎代表 小川事務局長 （ちば里山センター）伊藤
内容	いちほら里山クラブは 1989 年発足で、市原市内に 4 か所の活動フィールドがあり、活発に活動している。今回は、そのうちの 2 か所についてその管理方法、当面の問題点、今後の方向性などについて福島所長、荒木研究員から指導を受け、活発な質疑応答を行った。
報告	<p>（1）天羽田フィールド</p> <p>近くに大規模な住宅地があり比較的明るく管理されている。当初は密生する竹林との闘いであったが、現在は年数回の下草刈りが中心で、森の将来像が見えづらいためか活動参加者のモチベーションが保ちづらい現状となっている。所有者からは管理について細かい注文はない。</p> <p><質疑応答等></p> <p>○今後の誘導方針は？</p> <p>それなりの広さがあるので、森の将来像である目標林型を、落葉樹・常緑樹別、林齢などの組み合わせでいくつかのタイプに分けると、議論が具体的になる。下草刈り一つでも、全面的に行って快適な空間に創出する、樹木の病害虫を防ぐ意味で必要最小限に止める、林床の植生を保護するために時期等を選んで行うなど、さまざまな選択肢があるので、活動の目的が見える化されるので、参加者の納得も得やすい。</p> <p>（2）古敷谷フィールド</p> <p>前身の団体から数えると 25 年の歴史がある広大なフィールドで、谷津田、スギ・ヒノキ林、雑木林などが揃っており、森林整備、炭焼き、谷津田の畑作利用など幅広い活動を行っている。</p> <p><質疑応答等></p> <p>○スギ、ヒノキ林の管理の一つとして環状剥皮（巻き枯らし）を行っているがその評価は？</p> <p>巻き枯らしを間伐に有効に使うことは、今後の課題であるが取り組む価値はある。ただ今回の試行樹木は作業道に近すぎる。あまり時間を置かず伐採をお勧めする。</p> <p>○伐採したスギ・ヒノキ材の有効利用に簡易製材機を利用したいが、いい方法はないか。</p> <p>県内に簡易製材機を所有している里山団体があるので、その製材機をうまく利用することができないか、その仕組み、負担金額などについて里山センターとして取り組んでみたい。</p>

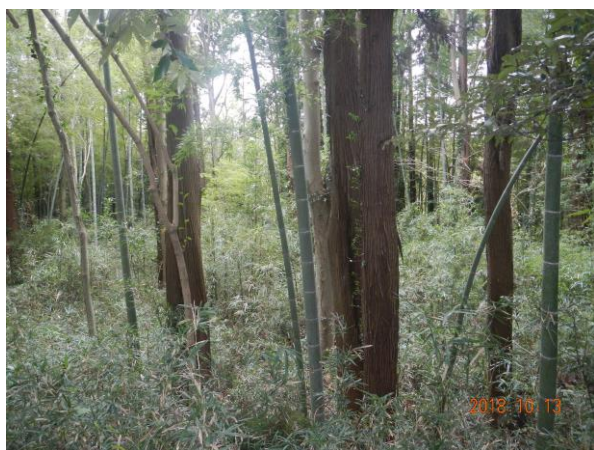
天羽田フィールド



巡回指導の状況（福島所長）



巡回指導の状況（福島所長・荒木研究員）



侵入竹林の様子



整備された林内

古敷谷フィールド



スギ林で



環状剥皮による間伐の試行



谷津田の利用について



ホトトギスなど林床植生の保護も課題